

第2期白石町観光振興基本計画の概要について

1 趣旨

白石町は、豊かな自然と歴史を持つ町で、令和元年に「道の駅しろいし」がオープンし、観光振興の拠点として重要な役割を果たしています。また、令和6年には「しろいし町観光協会」が設立され、観光振興を進める体制も強化されています。

一方で、観光を通じてどのように地域振興を進めていくのか、また交流人口・関係人口の拡大に向けた中長期的な方向性については、十分に整理されていない状況にあります。

第2期白石町観光振興基本計画では、地域資源を生かした観光を通じて、町への誇りや愛着を育み、交流人口や関係人口の拡大を図るとともに、町内外の人々との継続的なつながりを生み出すことを目的に、今後の観光振興の方向性と施策を示します。

2 計画の位置付け・期間

本計画は、第4次白石町総合計画に基づく個別計画として位置付けるものです。

計画期間は、令和8年度から令和11年度までの4年間とし、社会情勢の変化や事業の進捗状況等を踏まえ、必要に応じて見直しを行います。

3 白石町の観光の現状・課題

現在の白石町の観光は、地域資源を生かしながら、観光の力で地域振興を進めようとしている段階にあります。人口減少が進む中、交流人口や関係人口の拡大は重要な課題であり、観光は町の魅力を町内外に伝え、人の流れを生み出す有効な手段です。

「道の駅しろいし」のオープンにより観光客数は増加しましたが、来訪が道の駅に集中し、町内の他の観光スポットへの周遊につながりにくい状況が見られます。また、特産物の認知度は高い一方で、自然・歴史・体験など、他の観光資源の認知度は十分とは言えません。

さらに、観光情報の発信が十分でなく、特にSNS等を活用した若年層へのアプローチが弱いことも課題となっています。

今後は、町内観光資源の認知度向上と周遊促進を図るとともに、ターゲットに応じた情報発信を行い、町全体の魅力を効果的に伝えていく必要があります。

4 観光が白石町にもたらす役割

観光は、地域資源を生かして地域経済を活性化させるとともに、町の魅力を広く発信する重要な役割を担っています。

観光をきっかけに交流人口が増え、関係人口へとつながることで、地域との継続的な関わりが生まれ、町の持続的な活性化が期待されます。また、地域資源を再認識し、外部に発信していくことは、町民の誇りや郷土愛を育むことにもつながります。

5 基本方針

白石町の観光振興を進めるにあたっては、地域資源を生かしながら、町内観光地を一体的に捉えた取組が重要です。

本計画では、交流人口・関係人口の拡大を目指し、次の3つの基本方針に基づき、町、観光協会、関係機関が連携して観光振興を推進します。

基本方針1：地域資源を活用し、観光消費を促します

地域資源を生かした商品開発、イベント、体験プログラム等を通じて、来訪者の町内消費や滞在時間の拡大を図り、地域経済の活性化を目指します。

あわせて、観光施設の維持管理や宿泊環境の多様化を進め、観光客が町内で安心して滞在できる受入環境の向上を図ります。

基本方針2：町内周遊を促進します

道の駅しろいしを起点として、町内の観光スポットを効果的につなぐ情報提供を行い、町全体を巡りやすい環境づくりを進めます。これにより、観光客の滞在時間の延長や満足度の向上を図ります。

基本方針3：情報発信を強化します

SNS、ウェブ、紙媒体など多様な手段を活用し、ターゲットに応じた情報発信を行うことで、町の観光資源や取組の認知度向上を図り、情報の到達率を高めます。

また、町民や事業者、関係団体と観光情報を共有し、町全体で情報発信に取り組むことで、「白石町らしさ」が伝わる発信につなげます。

6 参考資料

- ・観光に活用可能な地域資源
- ・アンケート分析結果
- ・白石町観光振興基本計画策定委員会の開催・協議事項